

ケンの死に寄せて

リーダーだった
ケン（左）とマース



オオカミの森がオープンした平成20年は、オオカミの飼育を12年ぶりに再開した年。昔の狭い獣舎では、イヌのような姿しか見てもえませんでした。繁殖には成功していましたが、出産が迫ると雌を隔離し、子が生後1か月ほどたつてから雄と同居させるという方法。育つた子は他の園に行き、ペアだけの飼育が基本。オオカミが持つ本来の習性や社会性の形成を促すことができませんでした。平成8年に最後の個体が老衰で息を引き取りましたが、毛の抜け替わりがうまくいかず「ぼろ雑巾みたい」そんな声が聞こえる中、オオカミの飼育は終わりを迎えました。

オオカミの飼育を、このままで終わらせてはいけないうと、飼育を再開。オオカミは基本ワンペアをリーダーに、その子供たちと高度な社会性を持った群れを形成します。そんな姿

を見てもらうのがオオカミの森のコンセプト。通常と飼育方法を変え、放飼場（テリトリ）で終日過ごさせ、寝室で餌を与える（疑似的な狩猟場）という方法を取ることに。こうしてケンとマースの生活が始まり、共同で巣穴を作り、マースが出産するとケンが餌を運び、離乳が進むとケンは寝室で食べた餌を吐き戻してマースと子に与えました。群れで遠吠えをする姿は、まさにオオカミそのもの。そのケンが10月10日、13歳で息を引き取りました。2年前から運動機能の衰えが目立ち始めていましたが、最後までリーダーとして群れの調和を図りました。9月には息子のノチウが調和を保つようになり、リーダーが移行。死の1週間前には、下半身の麻痺が進行するなど、群れから隔離せざるを得ない状況になりましたが、緊張から解放されたかのような穏やかな表情でした。ケンはオオカミとして生き、来園者の心に残る素晴らしい一生を過ごしました。



旭山ピックアップ

たくさんの
ご応募ありがとうございました

旭山
動物園

児童動物画コンクール作品展示会

全990作品の中から最高賞の市長賞に、幼児の部・小島智樹さん、小学校低学年の部・青山ひかるさん、小学校高学年の部・佐藤春真さんの作品が選ばれました。入賞した103作品を、園内いこいの広場で12/12(土)まで展示しています。ぜひ、ご覧ください。



市長賞（小学校低学年の部）
青山ひかるさんの作品

旭山動物園をもっと楽しむ

旭山動物園 読書感想文コンクール作品募集

小学生を対象に、動物について書かれた本の感想文を募集。12/1(火)～来年1/24(日)に、学校を通して応募。詳細は同園HPに掲載

ワンポイントガイド

旭山動物園公式 YouTube で、動物たちのエピソードなどを紹介
毎週日曜日、祝日 13:30から

旭山動物園 ふれあい フォトコンテスト作品募集

動物の生き生きとした表情や愉快なしぐさの写真を募集。12/1(火)～来年1/31(日)に、同園各門、同園HPにある応募券を写真（Lサイズ・カラー）の裏面に貼り、データを保存したCDと一緒に郵送してください。

園内イベント

詳細は決まり次第、同園HPに掲載



冬期開園のお知らせ

11/11(水)～来年4/7(水)
10:30～15:30（入園は
15:00まで。11/4(水)～10(火)、
12/30(水)～1/1(金)は休園

本誌10月号の記載の一部に、誤りがありました。おわびして訂正します。

動物園からの手紙

誤：角袋
正：袋角

【詳細】旭山動物園
(東旭川町倉沼 電話36・1104)